

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 12 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671500845
法人名	社会福祉法人 サンシティあい
事業所名	グループホーム矢上
所在地	徳島県板野郡藍住町矢上字原129-3 (電話) 088-692-1833

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 2 月 12 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	18 人
常勤:5人、非常勤:5人、常勤換算:チュールリップ・バラ 9.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 20 日現在)

利用者人数	12 名	男性	3 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2		0 名	
要介護3	5 名	要介護4		1 名	
要介護5	3 名	要支援2		1 名	
年齢	平均 85 歳	最低 72 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊藤ケンゾー診療所
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム矢上は「チュールリップ」と「バラ」の2ユニットで構成され、広々とした敷地に建っている。玄関前の畑では、利用者と職員が一緒にいろいろな野菜や花を育てている。敷地内に湧き出る温泉をホームに引き込み、利用者の楽しみの一つになっている。またユニット名と同じ公園が近くにあり、利用者の散歩コースになっている。管理者と全職員は理念に基づくサービスの質の向上を実践し、利用者との和やかな会話や笑顔での生活に繋がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善項目「地域密着型サービスとしての理念」、「理念の共有と日々の取り組み」については運営者や管理者、職員間で開設当初の理念を再考して新たに作成し、全員で共有して実践に取り組んでいる。「地域とのつきあい」は、地域との双方向的な交流が図られている。「災害対策」についても運営推進会議を活用して地域住民の協力を得られるようになっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果を活かしてサービスを改善し、自己評価も全職員で話し合っ作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、町社会福祉協議会事務局長、地域包括支援センター職員、運営者、管理者、職員で構成されている。会議ではホームの現状や行事予定、利用者の希望や家族の要望、地域の人たちとの認知症の勉強会開催などについて討議している。内容は記録に残して全職員に回覧し、共有している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見等は、職員から声をかけるなど気軽に言ってもらえるよう配慮している。出された意見や要望等は記録してミーティング時に話し合い、結果を家族にも報告するなど運営に反映させるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームでの敬老会や餅つきに地域の人たちに来てもらったり、地域の秋祭りや初詣などの行事に利用者も参加するなど交流を図っている。また近隣の方から野菜作りのアドバイスをもらうなどの交流もある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念を見直し、住み慣れた地域での安心した生活の継続を支援する内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は理念を理解して共有し、日々のケアで実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでの敬老会や餅つきに地域の人たちに来てもらったり、地域の秋祭りや初詣などの行事に利用者も参加するなど交流を図っている。また近隣の方から野菜作りのアドバイスをもらうなどの交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を活かしてサービスを改善し、自己評価も全職員で話し合って作成している。また評価に基づく職員ミーティングの機会を増やし、さらなるサービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、町社会福祉協議会事務局長、地域包括支援センター職員、運営者、管理者、職員で構成されている。会議ではホームの現状や行事予定、利用者の希望や家族の要望、地域の人たちとの認知症の勉強会開催などについて討議している。内容は記録に残して全職員に回覧し、共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町介護保険担当窓口を訪問し、事業所の現状を報告したり、意見交換をするなど連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「日常生活報告書」を作成し、健康状態や暮らしぶりを毎月家族に詳しく報告している。預かり金の出納は領収書と共に家族に報告し、確認を受けている。職員の異動等は、家族の来訪時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等は、職員から声をかけるなど気軽に言ってもらえるよう配慮している。出された意見や要望等は記録してミーティング時に話し合い、結果を家族にも報告するなど運営に反映させるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視し、職員の異動は最小限に抑えている。やむを得ない離職等の場合は、引き継ぎ期間を十分にとり、利用者への影響を少なくする配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修は計画を作成し、多くの職員が参加している。研修報告書は全職員に回覧し、情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とネットワークを築き、互いに相談やアドバイスし合うなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に職員が居宅を訪問して本人や家族と話し合ったり、見学に来てもらって徐々に馴染みの関係を築くなどしてから利用に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の思いや苦しみ、よろこびを知ることに努め、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から利用者一人ひとりの意向を汲み取りサービスに繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が望む自分らしい生活を送れるよう本人、家族の希望や職員の意見、関わる人たちの思い等を勘案しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは期間に応じて行い、利用者の状態に変化があった時には、その都度必要な関係者と話し合い新たな計画を作成し、本人や家族の同意も得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況により通院や帰宅の送迎など必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援し、適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の方針は本人や家族と話し合っ決めていく。また利用者の状態に変化がある度に家族やかかりつけ医と相談し、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議の折にプライバシーの保護について話し合っている。記録等書類は適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や気分によって柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けは利用者と職員が一緒に行い、同じテーブルでゆっくりと会話を楽しみながら食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する時間に入浴できるよう支援している。敷地内から湧出する温泉が引き込まれ利用者の楽しみの一つになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの前の畑で季節の野菜や花を育て、収穫した大根を漬物にするなど利用者の生活歴や力を活かした気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、買物や散歩にでかけている。家族も共に近くのバラ園や近郊の名所に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開放感のある明るいケアを心がけ、日中は施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導のもと年に2回、災害時の避難誘導訓練を行っている。訓練には利用者や家族、近隣の方にも参加してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設事業所の管理栄養士が作成している。利用者一人ひとりの水分・食事摂取量を記録し、栄養管理に役立てている。また利用者の嗜好等についての一覧表を作成し、メニューを変更するなどの配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには大きなソファとテーブルを設置し、利用者は一人ひとりのお気に入りの場所でくつろいで過ごしている。ホールの壁の飾り付けは季節に合わせたものでスッキリとしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドや箆笥など馴染みの家具を持ってきている。また家族の写真を飾ったり、ぬいぐるみを置くなどしている方もいる。居室ドア横に職員が描いた似顔絵を貼り、場所間違いなどの混乱を防ぐ工夫をしている。		